

## 「第39回木と暮らしのふれあい展」

関東森林管理局東京事務所

令和元年10月5日(土)、6日(日)の両日、「第39回木と暮らしのふれあい展」(主催:東京都・(一



祝辞を述べる林野庁太田次長

社)東京都木材団体連合会、後援:林野庁、東京都緑化推進委員会、協賛:関東森林管理局東京事務所)が江東区の都立木場公園で開催されました。開会式は美しいアルプホルンの音とともに始まり、主催者の挨拶の後、林野庁太田次長が、木材利用拡大の呼びかけや、森林サービス産業などの森林林業の新しい可能性などにも触れた、お祝いの言葉を贈りました。

なお、会場である都立木場公園のあたりは、江戸時代から、公園ができる約30年前まで、多くの材木屋や水中貯木場があった歴史があります。

この催しは、「木づかい推進月間」である10月に、「森を育てたい。だから木を使おう。」をメインテーマに毎年開催され、今回、第39回目を迎える伝統のあるイベントとなっています。東京都の各木材関係団体等が出展し、木工教室や、多摩産材などを中心に国産の木材を使った製品の展示販売、大鋸(おが)を使った木挽体験、パネル展示、樹木サンプルを使った樹種当てクイズ、キャラクターショー等多彩な展示や催し



参加者の作品

が行われ、親子連れなど多くの来場者が木とのふれあいを楽しみ、大変な賑わいを見せていました。

今年も東京事務所は催しの協賛を行うとともにブースを出展し、国有林のPRに努めました。東京事



賑わう東京事務所のブース

務所のブースでは、国有林のある世界自然遺産のワークブックの配布、「ツキ板」(薄くスライスしたシート状の木材)製造者の団体と協力したサンプル配布のほか、「森林クラフト体験コーナー」を設



参加者の作品

け、緑の募金にご協力頂いた参加者に、職員が一年をかけて集めた木の実、松ぼっくりや木の

小枝などを使ったクラフト、木の実のリース、松ぼっくりツリー作りや、簡単なゲームのコーナーなどで行列が出来るほどの賑わいをみせました。参加者の皆さんにおかれましては、たくさんの緑の募金へのご協力ありがとうございました。

初日は季節外れの暑い日で二日目の午前中は雨となりましたが、昨年と同様約7万人の来場があり、大盛況なイベントとなりました。



参加者の作品